

## 「ほっかいどう学」地方創生塾(苫前町) 2年目 塾長招聘第1回

日 時

令和元年5月13日(月) 19:00~21:10

会 場

苫前町公民館

参加者

23名 (塾長1、メンバー6、一般参加11、事務局2、町広報1、新聞社2)

内 容

「ほっかいどう学」地方創生塾の2年目がスタートし、創生塾の活動をより多くの青年層に知ってもらう機会として地方創生塾フォーラム「わたしたちが主役 新時代のまちづくり」を開催しました。

始めに、平成29年度から会議や講座を実施してきた未来ビジョンミーティングと平成30年度の地方創生塾の活動報告をメンバーが行い、自分たちがどのような想いをもって活動しているのかを参加者に伝えました。

続いて、「人口減少下での地域の再生」と題して1年間の活動を見つめ支えていただいた西村塾長にご講話いただきました。講話では、自治体の財政が悪化することにより、地域の未来に希望がもてなくなったり、地域への誇りが低くなってしまったりする懸念があること、財政の悪化には様々な要因があり、人口減少は財政に対して必ずしも直線的な影響を与えないこと等を学びました。また、参加した青年層に対して「悩み試行錯誤しながら動くことがマチのひとつの魅力にもなる」とエールをいただきました。

その後、参加者と講師である西村塾長が一つの輪になり、日々の想いや感じていることを語り合う座談会を実施しました。メンバーがファシリテーターとなり、参加者一人ひとりの想いを引き出していきました。以下、発言内容の一部を紹介します。

- 住んでいるマチを良くするのは、住んでいる人だと思った。
- 行政が弱くなったときこそ、人と人の繋がりが大切になると思った。
- 人口減少対策が必要と考えていたが、苫前に暮らす人達が幸せに暮らせることが大事であると感じた。
- 地域のために自分に何ができるのか、そして、自分自身力をつけたいと考えながら講話を聞いた。
- 苫前はマチの産業を支える気持ち、継続していく気持ちが強いところだと感じている。
- 高齢化や人口減少が進む中で、様々な不安はあるが一人で考えずに、みんな考えていきたい。

成 果

フォーラムの実施により、新規参加者の発掘につながりました。メンバーの想いを一つずつ行動や形にしていきたいです。



メンバーによる活動報告



西村塾長による講話



座談会